

主張

第五三回全日本中学校道德教育研究大会

鳥取大会へ向けて

田村 穰



平成三十一年度から中学校で「特別の教科 道德」がスタートします。学習指導要領には「道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする」と記されています。具体的には、検定教科書の導入やいじめ問題への対応の充実、問題解決的な学習及び体験的な学習を取り入れた指導方法の工夫、記述式による生徒の成長の様子を認め励ます評価などが盛り込まれています。答えが一つではない課題に子供たちが道德的に向き合い、考え、議論することが求められています。各都道府県、各中学校においても、来年度の実施へ向け、様々な準備が始まっているところだと思えます。

鳥取県においては、鳥取県教育振興基本計画の基本理念「自立して心豊かに生きる未来を想像する 鳥取県の人づくり」の一八の施策の一つとして、「豊かな人間性、社会性を育む教育の推進」を掲げ、この中に、いじめ不登校の未然防止などとともに、道德教育の充実を掲げています。道德性を養う学習として、道德的諸価値の理解を基に自己をみつめ、多面的・多角的に考えることにより、自己の生き方についての考えを深める。また、この



ことが、自立した人間として他者と共によりよく生きる基盤になるとしています。

さて、平成三十一年十月二十四～二十五日、鳥取県鳥取市とりぎん文化会館において第五三回全日本中学校道徳教育研究大会鳥取大会を開催します。大会主題は「人間としての生き方について自らの考えを深める道徳教育のあり方」道徳科のこれからを試行する」としました。大会主題に込めた思いは次のとおりです。これからの道徳教育に期待されるのは、「人間としての生き方」について一人一人が考えを深め、自らの人生の指針となるべきものをいかにつかみ取っていくかということに他なりません。それはこのたび答申された、第三期教育振興基本計画の中核である「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成」に通じることになると考えます。「考え、議論する道徳」は、そのための一つの方策となります。「特別の教科 道徳」としてスタートする今こそ、道徳教育の抜本的な改善及び充実を行うには、どのように授業を展開していくのかを中心に据えていく必要があります。公開授業では、読み取り型の授業ではなく、人物教材を扱った道徳授業と、生き方に焦点を当てた教科書の教材を扱った授業を公開します。共に人生の命題に直接ぶつかっていく授業を予定しています。

教科化スタートの年の大会でもあり、注目度も高いのではないかと考えています。実行委員会では、授業だけでなく、課題別分科会においても授業に的を絞ったテーマとし、提言型の研究大会となるよう準備を進めているところです。鳥取県中学校長会、鳥取市中学校長会としても、鳥取県・鳥取市教育委員会と連携しながら、「自立して心豊かに生きる子どもたち」の育成のため、実行委員会をバックアップしていきたいと考えています。

(全日中副会長・鳥取市立東中学校長)